



日	月	火	水	木	金	土
〔山内公民館・六友館利用予定団体〕 山内書道サークル、山内俳句会、 ふらんしーず、おむすびの会、山内区長会 いきいき百歳体操、山内ゆうゆうクラブ、 山内自治振興会		1 燃えないゴミ回収日 ・いきいき百歳体操 14:00～15:00	2 のんびりカフェ	3 燃えるゴミ ペットボトル 発泡スチロール ライター } 回収日	4 廃プラ回収日	5 ・ふらんしーず 13:30～六友館
6	7 燃えるゴミ ・おむすびの会	8 ・いきいき百歳体操 14:00～15:00	9 ・山内書道サークル 13:30～15:30 ・山内ゆうゆうクラブ 13:30～15:30	10 燃えるゴミ ・自治振興会理事会 20:00～	11 廃プラ回収日	12
13	14 燃えるゴミ	15 ・いきいき百歳体操 14:00～15:00	16 のんびりカフェ	17 燃えるゴミ ・自治振興会 第2回運営委員会 20:00～	18 廃プラ回収日 ・山内俳句会 13:00～15:00	19 ・おむすびの会 ・ふらんしーず 13:30～六友館
20 ミハルカス	21 燃えるゴミ	22 ・いきいき百歳体操 14:00～15:00 ・山内学区区長会 20:00～	23 のんびりカフェ	24 燃えるゴミ	25 廃プラ回収日	26
27	28 燃えるゴミ ※今年度の 収集最終日	29	30	31 ※ごみの収集はあり ません	令和3年   元日	

今月の不燃物処理場の開場日

12/1・12/5・12/8・12/13・12/15・12/19・12/22・12/27・12/29 (粗大ごみ処理券(300円)が必要な場合があります。)

受付時間 9:00～16:00 土山不燃物処理場 TEL66-1140

※ 燃える粗大ごみ・燃えない粗大ごみ戸別収集も随時されています。連絡先：(株) ヒロセ 0748-52-0943 まで
販売店で引き取ってもらえない家電4品目(エアコン・テレビ・冷蔵(凍)庫・洗濯機(乾燥機)の戸別収集についても (株) ヒロセで確認してください!

行ってきましたよ！山内・秋ぶらぶらウォーキング



第三波襲来のコロナ禍ど真ん中、山内自治振興会地域福祉部で実施を迷いましたが、「秋の紅葉でみんながリフレッシュできたら！」と、感染対策に心がけ開催されました。午前(猪鼻)午後(黒滝)とコースを変えて今、はやりのノルディックウォーキング。根来先生から、ポールを持ち方、歩き方の指導を受け軽く体操を行いいざスタート!

午前のお目当ては、山内一の紅葉の名所、猪鼻の火頭古神社、真っ赤な紅葉の下で記念撮影。連休の中日というだけあってバイクが多かったな～。その後は、大日堂へと向かいましたが、前日の強風でイチヨウの葉が地面に黄色いじゅうたんとなっていて、参加した子どもたちがうれしそうでした。

また、同日開催されていたミハルカスでは、おむすびの会の栗おこわ、ういろう、かぼちゃのタルトケーキ、紺定さん弁当や油屋さんの唐揚げ等が販売されており、昼食としていただきました。

午後からは、スタート地点がダイヤモンドホテルの黒滝コース、参加者は午前中の半分になりましたが、安全な人通りの少ない道では野洲川の清流の音と共に歩きます。

惣王神社、黒滝遊漁場の紅葉もきれいでした。黒滝の集落内を歩くと、地域の人が声をかけてくれます。ちょっとヘトヘトになっていても元気をもらいます。ポールを持って歩くことで腹筋を使い、消費カロリーも上がることを実感しました。一日歩いて、17000歩。ぶらぶらウォークどころか、しっかりウォークになりました。

色づく里山、川の音、鳥の声、マスクを外して深呼吸すると贅沢な自然を改めて味わえました。参加された方、お疲れ様でした。

情報提供：竜王部長 (山内自治振興会ホームページにも掲載しています。)



山内俳句会の皆様より
師走の句

・葛嵐
源流きよし
滝の音

・山茶花の
咲満ちて尚
咲きつづき

・草の絮
飛びて光りて
虫となり

・芒野や
大きく活けて
風生まる

・鬼灯や
忘れず咲きて
花三つ

・紅葉狩り
杖をひろいて
坂登る



地域市民センター和美ちゃん
の聞いて欲しいねん!

みなさん体験教室と一緒にやってみませんか?のご案内です。「こんな事みんなで作ってみたいわ?楽しそうやん六友館利用してすることできひんかな?」のお声をたくさんいただきました。それは、私も作ってみたい「クラフトでハンドメイド体験教室」です。

日時:12月17日(木)13:00~
場所:六友館ホール

定員:10名限定(各回ごと)
参加費:500円(材料費など含む)

テーマ(7回コース)

- 第1回 寒椿 12/17(木)
- 第2回 ひな祭り 2月(未定)
- 第3回 鯉のぼり 4月
- 第4回 七夕 6月
- 第5回 ひまわり 7月
- 第6回 秋桜 9月
- 第7回 クリスマス11月

2021にむけ、新たな取組を和美ちゃんと一緒に午後のひと時過ごしていただけませんか。毎回ちょこっとした季節の素材を使ったおやつでホッとも考えていますよ。

申込・お問合せ:68-0001
山内地域市民センターまで



白黒で見にくいですが、
こんな感じです。

編集後記:”山内の民話シリーズ” やっと掲載することができました。愛読者のみなさんお待たせして申し訳ありませんでした。今月号も最後までご覧いただきありがとうございます。ご感想などお聞かせください。また、体調にはくれぐれも気を付けてください。

☆感染リスクが高まる(5つの場面)に気をつけよう☆



◎ 年末年始「し尿汲み取り」及び戸別回収粗大ごみのお知らせ

し尿くみとり年末臨時申込
12月4日(金)まで

粗大ごみ戸別回収申込期限
12月8日(火)まで

詳しくは、甲賀市広報「こうか」12月号
13ページをご覧くださいね。



“ふるさと 山内の民話” 『月さん』と『きぬき』と『ヤッ、ポンポン』

昔むかし上の平に、やんちゃ坊主の留吉、作蔵、弥助の3人組が住んでおった。3人は時々、ケンカもするが、いつも一緒に遊んでおり、暑さも落ち着いた秋の初め、弥助のおとつあんとおかつさんが、山向こうの北が谷に秋の準備に行くので、やんちゃ坊主3人組も、おとつあんのこしらえてくれた釣竿をかついで山のため池に釣りに出かけた。

北が谷は山を2つ越えた所の山の田んぼで、田んぼの水を溜めるため池が多くあった。この日は何も釣れないので田んぼの周りで遊んでいると、弥助のおかつさんが「もうじき、いりあいの鐘が鳴るでお前ら先に帰れ。」と言うので仕方なく3人は帰ることにした。

峠道の中ほどまで来ると、雑木林の中で「ガサ」「ゴソ」と何か動く音がした。「何かおるぞ。」と言いながら、クマザサの中を音のする方にしばらく行くと、前方に赤土の木も草も生えていない鍋を伏せたような小さな小山の見えるところに出た。小山には、何か動物が行ったり来たり忙しく動いている。

「何かおる。」「なんやろ。」「きつねか?たぬきか?」、3人はクマザサの間から覗いていた。しばらく見ていると、動物たちは楽しく遊んでいるようだった。「たぬきらしいな。」「そうやわ。」作蔵が返事を返した。クマザサの中に腹ばいになって見ていると、弥助が「留吉、たぬきがこっちに来るぞ。」とささやくと、かわいい顔のたぬきが3人組の前に来て「留吉さん、作蔵さん、弥助さん、こんばんは。今夜は満月で、たぬきのお祭りの日。鈴鹿山のたぬきがここに集まってお月様をお願い事をするのです。「留吉さんも、作蔵さんも、弥助さんも山の上に来てください。」という小山の方に走り去った。

「たぬきがしゃべった。」「本当にしゃべった。」3人組は何かにかれるようにクマザサの中から立ち上がると、たぬき達が居る小山に登った。頂上には小さな平地があり、3人組が座ると、たぬき達がホウ葉にあけび、くり、やまぶどう、さるなしの山の幸を乗せ、「山の食べ物ですがどうか食べてください。」と3人組の前に置いた。3人はお腹が空いていたので「おおきに」と言いながら食べていると、前の鈴鹿の山並みが明るくなり、大きな大きなお月様が顔を出した。辺りは昼のように明るくなり、たぬき達は喜んで飛び跳ねた。3人組の横にいた大きなたぬきが「ヤッ」と声をかけると、たぬき達が一斉にお月さんの方を向き、腹鼓を「ポン」「ポン」と打った。また「ヤッ」と声がかかると「ポンポン」と腹を打ち、「ヤッ」「ポンポン」「ヤッ」「ポンポン」「ヤッ」「ポンポン」「ヤッ」「ポンポン」とたぬき達は楽しそうに腹鼓を打って踊った。「弥助さん達も入ったら。」と誘われて、3人組は「ヤッ」と声がかかると「ポンポン」と腹をたたいた。面白くなりたぬき達と輪になったり、開いたりしながら「ヤッ」「ポンポン」「ヤッ」「ポンポン」と叫びながら踊った。それは、それは、たとえようのない楽しい時間だった。

どれ程の時が過ぎたか、遠くの方で「おーい弥助、留吉、作蔵」と呼ぶ声がする。たぬき達は一斉にクマザサの中に走りこんだ。だんだんと声が大きくなり、3人組が「ここや」と大きな声で返事すると、弥助のおとつあんが、「先に帰ったのに、こんなところでなにしてる」と言いながらクマザサの中から出てきた。続いて作蔵、留吉のおとつあんが出てきた。後ろから村の若い人が「いた、いた」と言いながら出てくると、3人は皆に先ほどまでのたぬきの話をする。「なに寝ぼけてるや、たぬきがしゃべるか」「おまえら、たぬきにばかされているんや」「何をあほなことゆうてるんや」と笑われた、3人の話を聞いてくれなかった。

その後、3人組はこの小山に何回可遊びに来たがたぬき達に二度と会うことはなかった。でも村人は、3人組の話から、誰からとなくこの小山を「ヤッ、ポンポン」と呼ぶようになったそう。

文責:鍋家 渡支雄

※この民話は私の創作です。